

前半 パネリストからのお話

※氏名等表記は登壇順

①東京大学大学院医学系研究科公衆衛生学講師 富尾 淳氏

新型コロナウイルスの感染状況と感染予防についての講義。マスクの着用・手洗い・消毒・換気のポイントなど、誰でもできる予防策をしっかりと行うことの重要性を教授いただきました。

②高円寺地区区民センター協議会 鈴木 寿榮氏

「きた！きた！高円寺まつり」など地域活動を再開したときのポイントをわかり易く発表いただきました。

③「コクテイル書房」狩野 俊氏(馬橋南自治会)

高円寺地域の地域活動の現状やこれからの地域活動。コロナによって地域活動はどのように変わって行くか。新しい試みも混ぜながらお話をいただきました。

④株式会社セレスポ 東京支店 関 歩美氏

「すぎなみフェスタ」の感染予防コンサルタント会社として、フェスタ成功に向けた取り組みを発表いただきました。イベントは主催者・参加者・来場者が開催前から感染予防に向けて協力できる環境づくりがポイント。

後半 パネリストとの質疑応答

●町会費の集金や回覧板の受け渡しなど人と接するとき、どんなことを注意すればいいでしょうか？

富尾氏 玄関先での会話等もできるだけ短時間にすること。また、マスクを着用し、手で顔などを触らないこと。終わった後は手を洗うことを励行してください。石鹼やアルコールでウイルスの脂質の膜を壊し撃退することができます。ドアノブや手すり、スイッチの消毒等、古典的ではありますが、必要な予防策をとることが一番です。

●町会などの行事開催の目安、注意点を教えてください。

富尾氏 確固たるエビデンスはないのですが、5,000人を超えるイベントや、飲食・歌を歌うなどのイベントは緊急事態宣言の下では避けたほうがいいと思います。

セレスポ 関氏 流行状況や公衆衛生の観点は非常に重要なですが、あと一つ、来場する人の目線に立って開催することが必要です。来場者が不安になってはいいイベントはできません。密にならないように立ち位置の表示や、通行の誘導など、来場者が安心できることが大事です。開催する側の思いだけではなく、行事は主催者・参加者・来場者の3者の気持ちが一致することが大事です。

●高円寺中央青少年育成委員会 豊川会長 2重マスクとか、布製はだめだと聞きますが、本当ですか？

富尾氏 ウレタンに比べて、さらに不織布のマスクが優れています。日々の生活では布で構いませんが、多くの人と接するなどリスクの高い場面では不織布を選んでいただくといいでしよう。2重マスクも効果はありますが、マスクと顔の間に隙間を作らないことが重要です。

●Withコロナの時代に沿った新しい行事のあり方は？

セレスポ 関氏 イベントの指標として来場者の数を競う傾向があります。しかし大事なのはイベント参加者の満足度です。これからは、人を集めないでも内容の充実を図る。ネットの利用もその一つです。これを機会にイベントの実

出席者からの質問をもとに、熱心な討議が行われました。



施方法を見直してみるのはいかがでしょう。

●新しい子ども食堂はどうだろうか

「コクテイル書房」狩野氏 私の店では缶詰やレトルト食品を加工できる機械を設置し、作ったものを届ける「子ども食堂」を考えています。食材を集めて調理してみんなで食べる形ではなく、感染予防から新しい食堂の形があつてもいいのかなと思い考えているところです（素晴らしい発想で、みんな拍手しました）。

●世代交代や地域活動が変わる

「コクテイル書房」狩野氏 新しい形といえるか疑問ですが、コロナ禍は確実に地域活動に変化をもたらすと思います。例えば、行事を伝えるDVDやSNSを使ったコミュニケーションツールは若い世代が行い、地域活動に必要な地元との調整は比較的高齢な知恵者が行うという風に役割分担が進み、新しい可能性につながるのでは？

●高円寺2丁目町会 糟谷会長 ご指摘のように、このコロナ禍で「高円寺ゆめ音楽祭」も一堂に会するのではなく、DVDにより、見たいときにみんなが楽しむという方法をとりました。コロナを見直す機会ととらえることは必要ですね。それと世代交代というのも大事な観点ですね。

●高円寺地区区民センター協議会会長 毛塚氏 話は尽きないようですが、今日はこれからの地域活動の可能性についての意見も出て、充実した懇談ができたと思います。ありがとうございました。